

Community Welfare Total Care Promotion Project

トータルケアNEWS

No.59 2016. 6. 30

発行 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
〒010-0922 秋田市旭北栄町 1-5
TEL 018-864-2714 FAX 018-864-2742
URL <http://www.akitakenshakyo.or.jp/>
E-mail chiiki@akitakenshakyo.or.jp

CONTENTS

「地域支え合いの仕組みづくりモデル事業」の取り組み
・小坂町社会福祉協議会
・五城目町社会福祉協議会

「地域支え合いの仕組みづくりモデル事業」の報告

～平成26年度モデル指定社協の取り組み～

本会では、「赤い羽根共同募金」の助成金を活用し、町内会や自治会、集落等の小地域において、地域の課題解決に向けて住民が主体的に取り組むための仕組みづくりを進める「地域支え合いの仕組みづくりモデル事業」を実施しています。

平成26年度から2年間、モデル地域に指定した小坂町・五城目町社会福祉協議会の取り組みを報告します。

◆小坂町社会福祉協議会 ～藤倉団地自治会の取り組み～

□ 指定地区の概要

【 藤倉団地自治会 】

- ・世帯数：89戸（H27.4.1 現在）
- ・高齢化率：50.47%（H26.4.1 現在）
- ・小坂町内でも高齢化率が高く、認知症の方が多いため、住民の支え合いを必要としている自治会

□ 具体的な取り組み

「藤倉団地自治会」では、はじめに役員会を中心に福祉マップづくり（見直し含む）に取り組んだ。この結果、同じ地域内に一人暮らし高齢者や認知症高齢者などの見守りが必要な世帯が存在することに改めて近隣住民が



マップづくり

気づきことができ、共有する良い機会となった。同じ頃、一人暮らし高齢者の突然死が続いたことで、見守りの必要性を含め住民が強く問題意識を持つようになり、異変に気付いた時に誰に連絡をするか等を明確にした緊急時の連絡支援体制を整備することができた。さらに、積雪で倒壊の危険性がある空き家情報も把握し、行政にも働きかけながら解体までこぎつけるなど、安心・安全に暮らせる地域づくりの実現に向けて取り組んでいる。

また、住民が気軽に集える場として「趣味の会」を立ち上げ、手芸や調理などを通じて交流している。プログラムの内容も関係し、結果的に女性が中心となっているが、自治会広報を発行して積極的な参加を呼びかけるなど、孤立を防ぎ、住民同士がつながり合うことを意識した取組みを実践している。



趣味の会

支え合いの担い手は住民自身となるため、地域の保健協力員や福祉協力員等の人材が退任後も引き続き関わり、協力することのルール化を今後想定しており、人材を育成・確保する仕組みとともに支え合いの体制強化に努めている。

一方で、地域で支え合うことの必要性を改めて全町民に浸透させ、その機運を高めるべく、町社会福祉大会で先進的な実践事例を紹介したり、藤倉団地自治会の取組みの実践発表を行うなど普及啓発にも力を入れている。

これらの取組みによって、藤倉団地自治会では自治会活動への参加率が向上し、住民の意識も着実に変化しており、福祉マップの見直しなど主体的な活動につながっている。小坂町社協では、今後も住民のニーズに対して住民自身が「何ができるか」を考える機会をつくりながら、そこから住民主体の多様な支え合い活動に発展することを期待し、モデル終了後も継続して支援していくこととしている。

◆五城目町社会福祉協議会 ～小川口町内会の取組み～

□ 指定地区の概要

【 小川口町内会 】

- ・世帯数：20戸（H26.4.1現在）
- ・高齢化率：44.8％（H26.4.1現在）
- ・年々少子高齢化と過疎化が進行し、買い物や通院、除排雪などに問題を抱えている町内会

□ 具体的な取組み

はじめに町内会にトータルケアサポート委員会を立ち上げ、地域で支え合いながら暮らしていくことの必要性を話し合う機会が生まれたことで、地域が置かれている現状と課題に住民が向き合い、理解することができた。

町内会では、地域の伝統的な風習「しめ縄・しめ飾り・注連縄」づくりに世代を超えて取り組むこととし、しめ縄づくりに関する知識・経験を有する高齢者を指導役に迎えて実施した。その作品を地区文化祭や福祉の集い、町の産業文化祭に出展したり、実際に小川口神社鳥居で活用することで、参加している高齢者等の生きがいづくりだけでなく、地域の世代間交流の場としても一役を担っている。これにより世代を超えて地域住民の支え合いに対する意識が強化され、地域の「共助組織」として位置づけられた。



しめ縄づくり

その後、トータルケアサポート委員会で検討を重ね、2年目以降は月1回のふれ合いサロン「趣味の楽園」をスタートし、サロンのプログラムの一つに「しめ縄づくり」を取り入れている。サロンで作られたしめ縄は、道の駅や農協等を通じて販売しており、自己財源の確保にもつながっている。



出展作品

また、サロンは定期的な安否確認の場としても機能しており、ひとり暮らし高齢者等の見守り活動にも取り組んでいる。そこから冬期間の除雪協力隊支え合い支援事業に発展し、一人暮らし高齢者世帯や身体の不自由な方がいる世帯のほか空き家等を見守り、必要に応じて玄関から道路までの除雪や除雪車による除雪後の雪よせを行うなど共助活動も充実している。

これらの活動を含め「町内会通信」を発行し、住民への定期的な情報発信に努めたことで、トータルケアサポート委員会への関心が高まり、結果的に活動への参加や協力が得られやすくなった。

今後は、しめ縄づくりが終了すると男性参加者が見込めなくなることを踏まえ、新たなプログラム等の企画や、除雪支援についても対象世帯の増加により対応が難しくなると思われ、支援体制づくりが課題となっている。住民の生活福祉課題は医療や介護、買い物支援、移動手段など問題が多岐にわたることから、五城目町社協では今後も町内会の自主的な活動を支援していくこととしている。



トータルケアサポート委員会